

第3次日野市ごみゼロプラン策定委員会（勉強会） 議事要旨

開催日時：平成27年7月17日(金) 15:15～16:15

開催場所：日野市クリーンセンター3階会議室

参加者：委員28名、日野市クリーンセンター職員（事務局）5名、パシフィックコンサルタンツ(株)（PCKK）3名

（1）第2次ごみゼロプランについて

事務局より第2次ごみゼロプランについて説明を行った。以下に主な質疑事項を示す。

- （委員）「日野ルール」の具体的内容が分かりにくいいため、ご説明いただきたい。
- （事務局）「日野ルール」とは、ごみゼロ社会を実現していくために掲げたプログラムのひとつであり、一例として、スーパー「いなげや」等で実践されているレジ袋の無料配布中止や、ごみ・資源物を適正に排出している事業所に優良事業所シールを配布する等の取り組みがある。
- （委員）ごみゼロプランの進行管理について会議で議論しているとのことだが、内容は公表されているのか。
- （事務局）ごみ減量推進市民会議を月に1回の頻度で開催し、プログラムの目標達成状況と進捗状況を定期的を確認し、進行管理を行っている。また、廃棄物減量等推進審議会において、年2回進行管理の報告及び次年度に向けた提言をいただいている。会議内容は公表していないが、必要であれば資料提供も可能である。
- （委員）行政は「日野ルール」プログラムの対象とする取り組みを、どのような方法で事業者呼びかけるのか。
- （事務局）容器包装廃棄物の削減に関しては、平成15年度頃からレジ袋の無料配布中止を呼びかけ、マイバッグ運動を展開した。さらに市民・事業者・行政協働でレジ袋削減について検討するレジ袋削減検討部会を開催し、一部のスーパーでレジ袋の無料配布中止を実現した。また、「容器包装お返し大作戦」を展開し、事業者の協力を得て店頭回収の利用を促進する結果につながった。
- （委員）ごみ改革以降、可燃ごみ、不燃ごみが減ったのは有料化によるものと理解できるが、日野市において資源も含めて総ごみ排出量が減った理由は何か。
- （事務局）有料化による意識改革、ダストボックスの撤去が主たる要因ではないだろうか。明確な回答ではないかもしれないが、過去に大量生産大量消費を美徳としていた時代からの意識改革が働いた結果が数値に現れたのではないかと推測する。
- （委員）お聞きしたいことが3点ある。
- ①第3次ごみゼロプラン策定委員の中で、第1次ごみゼロプラン、第2次ごみゼロプラン策定に関った方から実際に話をお聞かせ願いたい。
 - ②環境基本計画等、条例の基本を学びたい。
 - ③循環システム計画において、推進主体に専門部会（プロジェクトチー

ム) とあるが、我々市民には計画の状況が見えていない。記載の意味をお聞かせ願いたい。

- (事務局) ①今後の策定委員会等において、話をお伺いする場を設けていきたい。
- ②次回の委員会において、市環境保全課から環境基本計画について説明させていただく。
- ③専門部会については、日野市の施設整備計画において市民参加で検討を進めたという事例があり、そうした検討への参加をお願いしてきたという状況である。

(2) その他

事務局より第2回策定委員会の開催の説明、第2回資料の一部が意見集約後になる旨の説明、ならびにPCKKより分科会テーマ案・意見提出についてのお願いをを行った。

以上